

指扇周辺地区大規模雨水処理施設整備事業計画（さいたま市）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	指扇周辺地区は、準用河川新川を放流先とする地域であり、新川に流れ込む普通河川土屋川や普通河川御手洗川の流下能力不足および、近年の台風やゲリラ豪雨などの大雨により、その沿川の低地部や上流域の低地部で、頻繁に浸水被害が発生している。また、新川については河川改修事業が行われているが、土屋川については沿川の宅地化が進み、河川改修の目途は立っていないことから、早急な浸水対策が必要である。 なお、指扇周辺地区では、過去10年間に6回の浸水実績があり、当該浸水の延べ床上浸水戸数は9戸、延べ浸水戸数は29戸である。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・本計画におけるハード・ソフト含めた対象降雨：94.0mm/h ・目標とする理由：令和２年８月１２日に浦和区木崎出張所で記録した既往最大降雨：94.0mm/h ・ハード整備による整備水準の目標：55.5mm/h（1/5 確率降雨） ② 目標設定 i) 生命の保護の観点：当該排水区に存在する高齢者・障害者等要配慮者関連施設および家屋における床上浸水（浸水深 45cm 以上）を軽減する。 ii) 都市機能の確保の観点：当該区域の主要道路における道路冠水を軽減する。 iii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水（浸水深 45cm 以上）を軽減する。 iv) その他：特になし ③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について i) ハード対策 - 施設整備により55.5mm/h（1/5確率降雨）の降雨において浸水被害を軽減することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 - 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨94.0mm/hの降雨において、下水道管理者によるさいたま市内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、地域住民等による土嚢の設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、当該地区における被害の軽減を図る。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	有 （令和３年４月策定済み） 策定予定 （令和〇年〇月末策定予定）			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水幹線管渠（貯留管）の整備 貯留能力 29,900 m ³
			下水道管理者以外	
		ソフト対策	下水道管理者	- 土嚢の配布及び効果的な活用方法についての情報提供 - さいたま市内水ハザードマップの作成・公表 「開発行為の認可等に関する指針」を用いた雨水流出抑制の指導 - 各戸雨水浸透施設設置の指導及びアピール - スクリーンの点検及び清掃
			下水道管理者以外	- 水防訓練の実施 - 降雨量及び河川水位の情報収集 - 市内気象情報及び降雨量、主要幹線水位等をリアルタイム映像でホームページにて公開（水位情報システム） - 市報に防災関連記事の掲載 - 市内転入者へ防災ガイドブックの周知 - 洪水ハザードマップの作成・公表
	自助	ハード対策		- 防災資器材の備蓄（市の自主防災組織補助金制度を活用） - 土嚢の設置
		ソフト対策		・水防訓練や自主防災組織防災訓練の実施、土嚢設置体験の実施（市の自主防災組織補助金制度を活用）

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充に当たる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること（別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照）。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充に当たる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を下水道総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築（浸水に対する安全度の向上を伴わないもの）を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。（下水道総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く）

年度計画（百万円）

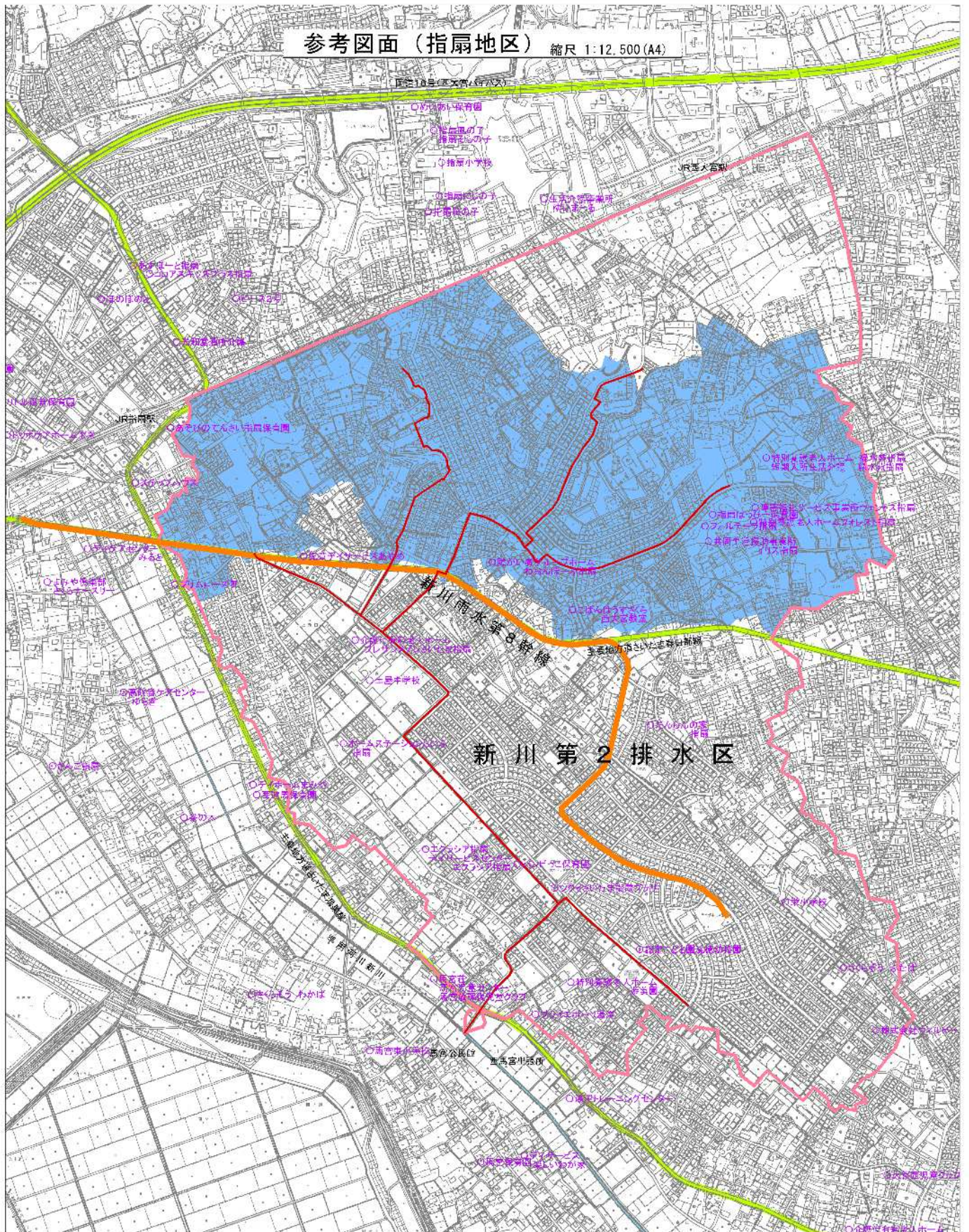
名称	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	計
雨水幹線管渠 (貯留管)	20	2,000	2,000	2,000	2,000	828	8,848
計	20	2,000	2,000	2,000	2,000	828	8,848

備考）事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。

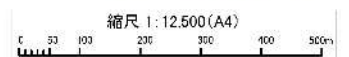
整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<事業評価の内容> 浸水被害の軽減便益：約 520 百万円が削減される。 B／C：1.2 経済的内部収益率：4.81% <その他の定量的な効果> 都市浸水対策達成率：49.6%→50.0%（全市） ソフト対策、自助の整備効果等： 既往最大降雨 94.0mm/h に対し、さいたま市内水ハザードマップ等による情報提供、地域住民等による土嚢の設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、当該地区における被害の軽減を達成する。
放流先河川との調整状況	本事業は、放流先河川の許容放流量に基づいた貯留施設の整備を行うものであるため、放流先河川との整合はとれている。
その他	特になし

参考図面（指扇地区） 縮尺 1:12,500 (A4)



凡 例	
	排水区分界
	計画幹線管路
	計画排水区域
	既設幹線管渠等
	緊急輸送道路



事業名	指扇周辺地区大規模雨水処理施設整備事業（さいたま市）	
縮尺	12,500 (A4)	

指扇周辺地区大規模雨水処理施設整備事業(さいたま市)

- 指扇周辺地区では、令和6年台風10号(時間最大雨量56mm/h)により、甚大な内水浸水被害が発生。
- 指扇周辺地区大規模雨水処理施設整備事業により、雨水貯留施設の整備を行い、5年確率規模降雨(55.5mm/h)に対して、浸水被害の軽減を図る。

位置図



令和6年台風10号による被害状況

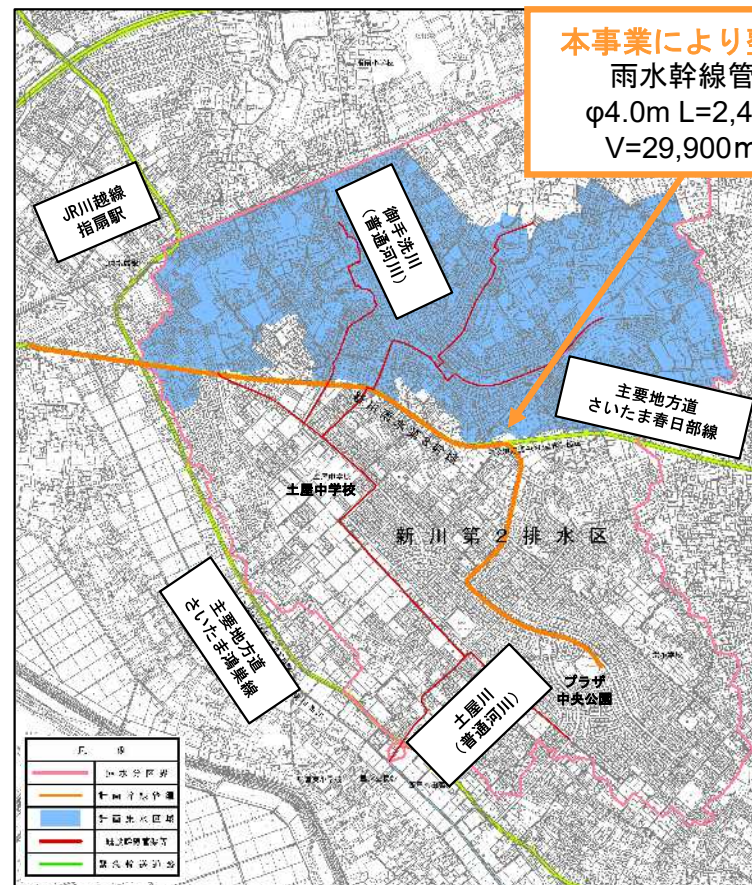


令和6年8月29日
時間最大降雨: 56.0mm/h

床上浸水	3戸
床下浸水	3戸
道路冠水	9か所

事業概要

- 事業内容 : 雨水幹線管渠整備 $\phi 4.0\text{m}$ $L=2,420\text{m}$ $V=29,900\text{m}^3$
- 全体事業費 : 約88.5億円 ※工事諸費等を含む
- 事業期間 : 令和8年度～令和13年度



本事業により整備
雨水幹線管渠
 $\phi 4.0\text{m}$ $L=2,420\text{m}$
 $V=29,900\text{m}^3$

事業の効果

5年確率降雨(55.5mm/h)において家屋の浸水面積が軽減。

<浸水シミュレーション結果による
5年確率降雨の浸水被害軽減効果>

床上浸水面積(浸水深0.45m以上)
0.30ha → 0.12ha

床下浸水面積(浸水深0.05m～0.45m未満)
20.76ha → 13.75ha

B/C=1.2

整備効果

